

2024年7月5日

学校関係者評価委員会 報告書

学校法人コア学園
秋田コア ビジネスカレッジ
学校関係者評価委員会

「専修学校における学校評価ガイドライン」に基づき、学校関係者評価委員会において「2023年度自己評価報告書」に対し、評価を行った。学校側からの説明および各委員からの意見を以下の報告書として取りまとめた。

学校関係者評価委員（出席者）

<委員長>

浅野 雅彦 (秋田商工会議所 理事兼事務局長)

<外部委員>

佐藤 正人 (一般社団法人秋田県情報産業協会 理事)
柴田 篤史 (吉川税理士事務所) 所長 吉川裕太 氏 代理
石田 雄哉 (秋田市立秋田商業高等学校 教諭)
佐藤 真也 (秋田赤十字病院 人事課人事係長)
橋本 浩 (ホテルメトロポリタン秋田 総支配人)

<学校側>

小林 聖敬 (副理事長)
小野 巧 (校長)
小玉 拓子 (事務長)
小杉 咲子 (学生部部長)
米谷 久志 (教務部部長)
黒澤 勝 (情報システム科主任)
大石 卓司 (ビジネスマネジメント科主任)
舘岡 美紀 (医療事務科主任)
生駒 伸 (ホスピタリティマネジメント科主任)

学校関係者評価委員会

日時：2024年6月12日（水） 17:15～18:00

場所：学校法人コア学園 秋田コア ビジネスカレッジ 103・104教室

1. 学校からの配布資料

- (1) 職業実践専門課程 リーフレット（文部科学省）
- (2) 学校評価委員会実施規程
- (3) 2023年度自己評価報告書
- (4) 学生便覧
- (5) 学校案内

2. 学校からの主な説明

(1) 学校評価について

①学校評価の目的

学校評価を通じた組織的・継続的な教育活動等の改善、および、学生・卒業生、関係業界等の地域のステークホルダーとの連携協力による特色ある専修学校づくりの推進のため。

②学校評価の定義

- ・自己評価：各学校の教職員が、当該学校の理念・目標に照らして自らの教育活動について行う評価
- ・学校関係者評価：学生・卒業生、関係業界、専修学校団体・関係団体、中学校・高等学校、保護者・地域住民、所轄庁等の学校関係者により構成された評価委員会等が自己評価の結果を基本として行う評価
- ・第三者評価：学校から独立した第三者による評価基準等に基づき、専門的・客観的立場から行う評価

(2) 外部アンケートの実施について

学生を対象に、2023年度の授業評価アンケートを実施し、自己評価の資料として活用した。

(3) 自己評価について

「専修学校における学校評価ガイドライン」に基づき、「教育理念・目的・育成人材像」「教育活動」「学生支援」の3つの視点に沿って評価項目を設定し、自己評価を行った。

3. 委員からの主なコメント、質問及び回答

- (1) 評価項目 「(5)-5 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか」

「(6)-8 卒業生への支援体制はあるか」

意見：リカレント教育のイメージが湧かないので、例えばどのような事を行うのか教えて頂きたい。

回答：医療事務科では昨年度から卒後教育ということでOGを集めて勉強会を中心に

行う計画をしたが昨年度はメンバーの集まりが悪く開催できなかった。内容としては本年度診療報酬の改定があり昨年度の冬あたりに卒業教育を開催し改定点についてリカレント教育を行うというもの。

(2) 評価項目「(2)-3 業界や地域社会と連携を図りながら、県内就職を推進する」

意見：就職率 71%という数字は、傾向として毎年上がってきているような状況か？

回答：県内就職はコロナの最盛期は 85%でありこれは記録的な数字だと思われる。そこから落ち着いてきて 76%、71%と推移し、全体として 7 割以上は県内に就職をして、地元で活躍している状況である。

意見：県の誘致企業への就職も増えてきているという記載があるが、これは特段、何か努力していることはあるか。

回答：秋田県が積極的に働きかけており、誘致されてきた企業の関係者から説明会を受け学生が受験するという流れができている。秋田に誘致されてきた企業ということもあり積極的に秋田の学生を採用するという意思に溢れていて、それを学生も感じ取って受験して内定に結びついている。

(3) 評価項目「(5)-4 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか」

評価項目「(5)-5 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか」

意見：卒業生の状況を体系的に調査するための方策について検討の余地があると記載されていて、前回の委員会において卒業生の状況を把握して色々な就職に活かしたらどうかという意見があったが、具体的にあればお聞かせいただきたい。

回答：昨年度は卒業生、過去 3 年間に往復はがきで案内をして、勉強会への出欠と共に現状の就業の状況を記入してもらうようにするなど情報を集められるようにしている。同窓会もコロナで停滞しているが、この同窓会が上手に機能していくと、県内にいる学生の把握はできると思われる。卒業後の同窓会の案内のハガキよりも SNSの方が反応しやすいという意見から連絡手段として SNS をツールとして残す方向も検討していきたい。

以上